

みなさんの 健康 & 法律



福岡大学医学部精神科 講師 小林 隆児

■こどもの心の発達(第18回)
心因性視力障害

特に身体的原因が見当たらないのに視力低下や視野狭窄を訴えて眼科を来院する子供が最近とみに増えています。

F子は小学2年の女児としても利発的で年齢にしてはやや配慮的すぎるほどの印象が残る子供でした。主訴は視力低下と眼の痛み、さらには赤が緑に見えるなど色覚異常など目に関する様々な症状でした。幼児期から夜驚を起こすなど神経質なところがありました。母親の仕事や態度に敏感に反応し、甘えを極力抑え、友達にも非常に思いやりのある態度を示します。余りにも自分の感情を抑えるためか学校に通うようになると肩凝りが酷く、そのためランドセルを嫌がり、手さげカバンで通学するほどだったといえます。面接で気になったのは、筋肉の緊張が強いこと他に、子供らしい空想の言葉、まんが、アニメなど



保隙装置とは

ず、心の中が萎縮している感じがしたことでした。主に家族療法を行い、母親への対応を中心に進めましたが、F子が母親にこうした気配りを見せるようになった背景には母親の幼児期体験が強く関係していることが次第に明らかになってきました。5歳の時に母親の両親は離婚し、父親に引き取られ、母親に甘えるという体験を知らないまま育つたのでした。そのため子供が自分に甘えてきてもどう対応してよいか分からず、甘えるという行為に余り良い感情を持っていないと言います。そのため子供に接する時はかなり意識的に振る舞わないといけません。こうした態度は夫婦関係にも反映されていました。そのため次第に心的疲労が重なり抑うつ状態を呈していたのです。抗うつ剤の投与と母親らしさの獲得をめぐる心の葛藤に焦点を当てた家族療法を行うことで母親は次第に立ち直ることが出来ました。さらにF子の視力障害は一過性でま

乳歯のむし歯が進んで歯の根先まで化膿してしまった様な場合、その下にある永久歯への影響や化膿病巣による全身への悪影響を考えると、やむをえずその歯を抜かなければならなく成ってしまうことが多いようです。しかし、たとえ抜いた歯が一本でも、その歯と隣合っている歯が寄ってきて傾いてしまったり、なくなった歯と噛み合っていた歯が伸びてくるなど、まわりの歯に与える影響は大きいようです。



福岡歯科大学 小児科歯科学教室 助手 石井 香

健康コラム

「成長痛」

素人判断してはいけません

Q 満五歳の男の子です。時々、原因不明のひざの痛みを訴えますが、しばらくすると自然と治ってしまいます。何となく心配なのですが……。

A 二〜三歳から五〜六歳にかけて、このような原因不明の足の痛みを訴えることがあります。しばらく休んだり、さすってやると、自然と治ってしまいます。また、レントゲンや血液検査の結果、特に異常がない場合、成長期の発育痛、すなわち「成長痛」と診断されることがあります。子供の旺盛な運動エネルギーに下肢の発達がついていけないものが脚の痛みの原因になると考えられています。この種の脚の痛みの中には、まれに大きな病気が隠されているので、専門医で十分な検査を受けた方が安心です。またこの時期、風邪をひいた時によく見られる病気に、単純性股関節炎というものがありますが、主として片側のもものつけ根付近が痛み、朝起きたら急に脚が痛くて歩けないといった症状を示します。安静にしていれば、二〜三日で治りますが、ひどい場合には入院して、脚をしばらく牽引する必要があります。完全に治ればあまり再発はしませ

また前歯の場合は発音への影響、審美的な配慮も含めて考えてあげなければなりません。このような時、抜歯した後すぐに「保隙装置」と呼ばれるものを入れます。この保隙装置というのは隙間(スペース)を保つための装置という意味で、抜けたしまった歯のスペースを一定期間保つために使われ、一歯だけの保隙、数歯から多数歯にわたる

あなたにすすめていきたい人

講座
講演
セミナー

「鉄樹音」フレ
セント実施中
クロレフィアミリン
特大瓶1瓶 9,800円
特大瓶2瓶 19,600円